

平成29年度

事務事業評価表 A (平成28年度の実績評価)

記入年月日
平成 29 年 3 月 15 日

事務事業名		桜川市スポーツ芸術文化振興協会事業			事業区分		担当	
		政策体系上の位置付け			新規/継続	継続	事務事業No.	030103000206
		総合計画の施策名			単独/補助	単独	所属課	090101
		0301 学校教育の充実			主要事業		学校教育課	
政策体系		政策名			市長マニフェスト		グループ	
		03 豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり			未来PJ事業		総務グループ	
		01 学校教育の充実			合併建設計画事業			
		基本事業名			教育体制の充実			
財務会計上の位置付け					事業期間			
予算科目					単年度繰返し (年度~)			
会計					← 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			
款								
項								
目								
事業								
細								
法令根拠								

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要(事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
桜川市のスポーツの振興を図るため、団体及び個人に対して交通費・宿泊費・参加費の一部を助成する。芸術文化の振興を図るため、郷土の歴史や伝統的文化活動に対する保存、継承活動に対する運営費の一部を助成する。	会計監査、桜川市スポーツ芸術文化振興協会総会開催、助成金交付に係る申請の受理、審査、交付決定、助成金交付日決定、交付式、事業報告書の受理

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	30年度 (目標)	31年度 (目標)
会計監査、桜川市スポーツ芸術文化振興協会総会開催、助成金交付に係る申請の受理、審査、交付決定、助成金交付日決定、交付式、事業報告書の受理	助成金交付件数(個人)	件	29.00	29.00	25.00	25.00	25.00
	助成金交付件数(団体)	件	11.00	16.00	20.00	20.00	20.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	30年度 (目標)	31年度 (目標)
市内の小学生、中学生、高校生、一般	市民	人	42,444.00	42,048.00	41,652.00	41,256.00	41,256.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	30年度 (目標)	31年度 (目標)
市内の体育活動や芸術文化活動をする団体・個人に対して、上位大会等への出場経費に対し、助成をすることにより、桜川市のスポーツ及び芸術文化の振興を図る。	関東、全国大会出場者数	人	211.00	202.00	200.00	200.00	200.00
	各種芸術文化活動数	団体	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量(事業費)の推移		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	30年度 (目標)	31年度 (目標)	期間限定 総投入量		
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	
		使用料・手数料	千円	0	0	0	0	0	
		その他	千円	1,656	1,838	2,000	2,000	2,000	0
		一般財源	千円	0	0	0	0	0	0
	事業費計(A)	千円	1,656	1,838	2,000	2,000	2,000	0	
人件費	正規職員従事人数	人	1.00人	1.00人	1.00人	1.00人	1.00人		
	述べ業務時間	時間	186.00	180.00	180.00	180.00	180.00		
	人件費計(B)	千円	540	522	522	522	532		
トータルコスト(A)+(B)		千円	2,196	2,360	2,522	2,522	2,532		

事業費の内訳	28年度事業費 実績(千円)			29年度事業費 予算(千円)		
	19 負担金補助及び交付金	1,838		19 負担金補助及び交付金	2,000	
		合計	1,838		合計	2,000

(4) 当該年度の実施内容	29年度の事業内容	30年度の事業内容	31年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する			
<ul style="list-style-type: none"> ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業 			

事務事業名	桜川市スポーツ芸術文化振興協会事業	事務事業No.	30103000206	所属課	学校教育課
-------	-------------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 児童生徒のスポーツ芸術文化の向上と伝統ある郷土芸能の保存振興を図るため、合併時に岩瀬町の制度を引き継ぎ、平成18年6月1日桜川市スポーツ芸術文化振興協会を設立した。合併し、小学校11校・中学校5校・市内高等学校3校となったことにより、助成対象が広範囲となった。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか? 特になし。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容 現状維持

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	スポーツ、文化関係の大会に対し助成金を交付し、参加しやすくなることは生涯学習・芸術文化活動の推進につながる。児童生徒の体育面・文化面での向上を図り、心身ともに健全な育成を図ることは教育の充実にもつながる。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	桜川市の芸術文化の振興のため、団体及び個人に対して必要な助成をし、スポーツ芸術文化の分野における優れた人材の育成を目的としているので妥当である。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	各スポーツ大会に対する助成が多く、文化関係に対する助成が少ない。文化関係に対する助成の基準を明確にする必要がある。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有	関東・全国大会へ出場する児童・生徒の保護者の個人負担が増額される。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない	類似事業はない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	県の代表として関東・全国大会に出場する個人及び団体に対して助成金を交付していることで事業費は一定でなく毎年変動している。人件費については、振興協会が助成金を適正に交付するための必要最低限の事務によるものである。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である	振興協会事業計画に基づき、桜川市内に設置してある。小・中・高等学校の児童生徒及び一般市民がスポーツ及び芸術文化関係で、県の代表として関東・全国大会等に出場する個人及び団体等に対し助成金を交付しているため妥当である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 文化関係に対する助成の基準を明確にする必要がある。
(3) 今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) コスト削減 維持 増加 向上 ○ 維持 低下
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 基準をもっと明確にし、事業に関する情報を関係団体に知らせる。	(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 ① コスト削減優先度評価結果 ⑨

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価 課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合) 確認欄 <input type="checkbox"/>
--	---